

文書館だより

Fukui Prefectural Archives



「だるま屋少女歌劇プログラム」

第2号目次

知事あいさつ	2
古文書入門講座の報告	3
資料の保存について	4
歴史的公文書の紹介	6
寄贈資料紹介	7
お知らせ	8

第2号

2003.9

福井県文書館

ごあいさつ



福井県文書館は、福井県の歴史を知る上で貴重な資料となる公文書・古文書等を収集・保存し、県民の皆様の歴史研究・生涯教育にご活用いただく施設として、今年2月に開館いたしました。

文書資料は、人類共通の宝であり、これまでの永い歴史に大きな役割を果たしてまいりました。私たちの現在の社会がどのような道をたどって確立してきたのか、また、未来に向かってどのように歩んでいくべきかを知るための手がかりとなっています。私たちは、先人が苦勞して残してきた貴重な文書資料を、細心の注意を払って保存し、過去の文書はもちろん、現在の資料やこれから作成されていく文書の中で歴史的に価値のあるものを、人類共通の財産として未来に伝えていかなければなりません。このため、文書館の果たす役割はきわめて大きく重要であります。

また、文書館はどなたでも気軽に利用できる施設です。当館に対する理解をより一層深めていただけるよう、皆様に役立つための事業を積極的に行い、「開かれた親しみのある文書館」を目指してまいりたいと考えております。

今後とも県民の皆様のご指導、ご協力をいただきますようお願い申し上げますとともに、公文書や古文書など貴重な文書資料が広く活用されますことを願っております。

福井県知事 西川一誠

Cover Photo Story

表紙写真：「だるま屋少女歌劇プログラム」
(高田富家文書)



福井市の百貨店だるま屋がみずから「生徒」を養成し、そのホールで上演していた少女歌劇のプログラムです。1931年（昭和6）11月から月毎に演目を替えながら36年7月まで公演が行われていました。二期生が加わった32年秋頃から「時代劇レビュー忠臣蔵」などしだいに本格的な劇が上演されるようになり、「新史歌劇北荘落城」や「童話劇人絹時代」（福井放送局の開局記念週間に放送）といった地域性のある題材も取り上げられていました。プログラムには34年10月から批評・感想欄が設けられ、批評誌としての性格ももっていました。（閲覧室でカラー複製本が閲覧できます。）

古文書入門講座が開催されました！

～はじめて古文書を読んでみようという方に～

開催日：6月22日(日)、6月29日(日)、7月6日(日)、7月13日(日)

開催時間：13:30～15:30 講師：文書館職員

古文書入門講座が4回シリーズで開催されました。2月に開館以来、当館の講座としては初めての試みになります。今回は、古文書初心者の方が、古文書の世界に親しみを持っていただき、「もっと読んでみたい」と思えるような講座になるように、身近で多様な福井県内の資料を取り上げ、カラーの画像や実物の古文書なども使用して、楽しめるように工夫しました。

募集定員30名のところ42名の申し込みがあり、関心の高さをうかがうことができました。受講者は、まったくの初心者から少し慣れた方、よく慣れた方と幅広く、それぞれが楽しめるようにという思いから、使った資料の分量は少し多めに用意しました。また、初心者対象ということで、辞典の引き方や福井県史などを使わずし字の一人学習の方法なども紹介しました。(詳細は当館のホームページをご覧ください。)



第1回 版本で入門の入門(担当 柳沢)

題材：『小学読本』巻1

福沢諭吉の『世界国尽』など

第2回 「家」の古文書を読んでみよう!(担当 吉川)

題材：祝儀覚、村送り状、離縁状など

第3回 村方文書に親しむ(担当 本川)

題材：太閤検地帳、領知宛行状、村明細帳など

第4回 楽しみながら読む(担当 吉田)

題材：俳諧『柳多留』など

毎回、受講者はそれぞれ熱心に取り組んでおられ、質問も多数ありました。また、延長での受講を希望される方もいらっしゃいました。受講者からは、「講座の進め方がわかりやすかった」「時間が短かった。もっと増やしてほしい」「もっと歴史的な話も交えて聞きたい」などの感想・要望をいただきました。今後の講座に反映していきたいと思います。

なお、10月下旬から古文書読解講座、続いて県史講座を開催いたします。皆様の受講をお待ちしております。(詳細はP.8にあります。)



特集 資料の保存について

高温多湿の日本においては、資料保存に関して古くから虫害やカビ、ネズミに悩まされてきました。また、とくに、公文書は形態や材質、印刷方法なども多種類におよんでおり、酸性紙問題なども深刻になっています。歴史資料である公文書や古文書などを永く保存していくことは文書館の大切な役割であり、保存に関する情報も関係機関や古文書の所蔵者に提供しております。

① 資料を損傷する原因と劣化現象

和紙が大好物のシミやシバムシ、ゴキブリなどの虫害の他、ネズミによる被害も多く見られます。また、高温多湿のため、カビも多く発生します。

明治以降の製紙業の発展により、印刷用洋紙は酸性のものが多く、公文書では、酸性劣化や酸性紙の影響による中性紙の変色などが見られます。また、記録方法が多様化し、インク焼け・青焼きなどの変褪色、湿式コピー類の銀鏡化などの劣化現象が見られます。紙資料についているクリップやホッチキスなどは錆びてしまい、輪ゴムは紙そのものに付着し、資料を傷めてしまう要因になります。

また、光や熱、水分なども劣化の原因であり、高温多湿の日本においては資料の保存は難しく、とくに近年の夏に見られるような気温35℃、湿度70%という状態では、資料の寿命がかなり縮まるようです。さらに、急激な温湿度の変化も資料にストレスを与えるようです。

② 保存環境と防護措置

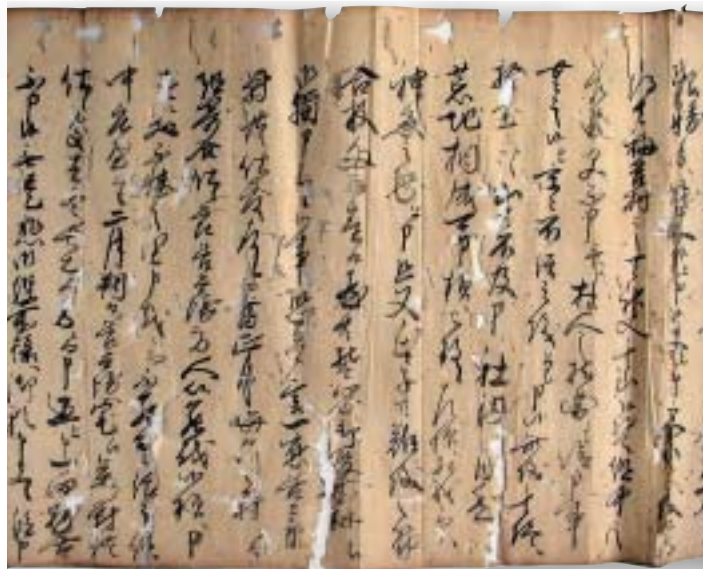
これまで文書等のくん蒸剤としてひろく利用されてきた臭化メチルは、オゾン層破壊物質として2004年末で生産・消費が全廃されることとなります。こうしたなかで薬剤にばかり頼らない、予防対策をも組み込んだ日常的な資料管理が見直されてきています。

一般家庭でよく見られるのが、防虫剤の使用です。樟脳やナフタリンなどを密閉した空間で使用することは効果的ですが、混用などの場合は成分によっては注意が必要です。10～11月頃に虫干しを行うのも効果的です。温湿

度は年間よりも1日の変動をなるべく抑えることが大事なので、温度変化の少ない場所に保管することが必要です。

保護用品は資料に直接に触れるので、資料に影響の少ない材質のものを選びます。保存封筒・保存箱は中性紙のものを使用し、茶封筒は資料を酸化・茶変色させるので避けます。傷みのひどいものは修復を行います。修復は最終手段で、現状尊重が大原則です。したがって修復はいつでも元の状態に戻せるような最低限の修復にとどめます。

福井県内にはまだまだ歴史的価値がある文書があるはずですが、しかし、古くて汚いものとして廃棄されてしまうこともあり、また、常に虫害やネズミなどの危険にさらされています。福井の歴史を知る上で貴重な資料を未来に残すためにも、簡単に廃棄したりせず、保存方法など気軽に文書館に相談してください。



虫害の古文書



くん蒸庫

資料保存利用機関・市町村史編さん関係者・文書管理担当者を対象に

資料保存研修会 「紙資料の保存と管理」が 開かれました。

7月16日(水)、資料保存利用機関・市町村史編さん関係者・文書管理担当者を対象に、図書館小集会室にて資料保存研修会を開催しました。



講師には、金山正子氏(元興寺文化財研究所研究員)を招き、紙資料の保存と管理の基本、簡易な修復について学びました。元興寺文化財研究所は、文化財の調査・研究および保存処理・修復を行う専門機関です。

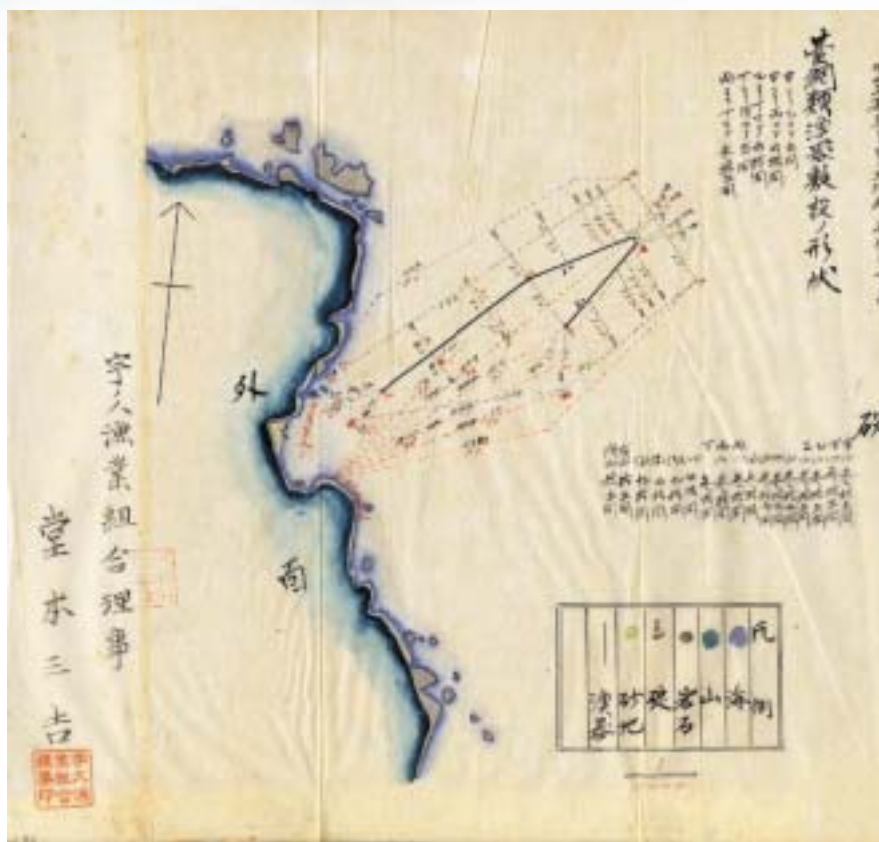
講義では、紙資料の劣化と保存環境、資料の保護措置、状態調査と保存の計画について説明していただきました。欧米に比べ、高温多湿の日本で文書を保存するのは大変なことだと強調されていました。その後、紙の表面のpH値測定と脱酸処理、破れや虫損の繕い、こより作りと綴じなど、簡単な補修の実習を行いました。なかなかうまくこよりができず苦労しているようでした。

県内自治体をはじめ、石川県・岐阜県・京都府など近隣の府県からの参加もあり、活発な質問が出される研修会となりました。日頃より資料管理に携わっておられる方々なので、熱心に取り組んでいました。今後も保存のための講座を開催していく予定です。



歴史的公文書の紹介

明治時代の漁場図



204「定置漁場図」第2号
(1903年)

福井県では、第2次世界大戦による戦災および1948年（昭和23）に発生した福井地震による震災のため、戦前の貴重な公文書のほとんどを失い、今日に伝わっているのはごくわずかにすぎません。福井県庁で保存され、文書館に引き渡された歴史資料として重要な公文書の中に、戦前の公文書は90冊、このうち明治時代のものはわずか18冊です。

今回、ここで紹介するのは、福井県にとって希少な明治時代の18冊の中に含まれる当時の福井県内の漁場図です。（文書館ホームページのトップページの画像でもご覧いただけます。）

原始時代以来、現在の福井県域に住んでいた人々は漁業にも従事していたことが、考古学の発掘の面からも実証されています。江戸時代まで連綿と続いていた漁業は、明治時代になり新しい段階を迎えます。

漁業を生業とする人々にとっては、漁業を行う権利や漁場の範囲、行うことができる漁法などは死活問題とも

なりかねない重要な権利であり、場合によっては大きな争いとなることもありました。明治政府は、漁業に関する権利を公認するとともに、その権利の所有状況について公開しました。福井県報に掲載された告示では、登録された漁業権（漁業免許）の概要が広く一般に広報されていたことがわかります。

一方、県では漁業権の内容を詳細に把握することが必要であったため、免許申請時に漁場図を2部提出させ、その内の1部を簿冊に取りまとめました。その多くは薄手の帖紙に彩色された美しいものです。ご利用にあたっては、文書館で所蔵している免許申請原簿と合わせてご利用されることをお勧めします。

明治時代の漁業権を証明するものが、そのまま今日の権利に直接つながるものとは限りませんが、明治の人々の漁業に関する思いは、彩色を用いた絵図として今日もその鮮やかさを失ってありません。

寄贈資料紹介

文書館開館以来、県内外の資料所蔵者の方々から貴重な歴史資料の寄贈を受けました。お礼を申し上げるとともに、正式な手続きが済んだ資料について、ここでご紹介いたします(8月末日現在)

1P 江崎英二氏寄贈資料

大飯町三森村で庄屋を勤めた岩崎左近家文書。小浜藩により開かれた野尻鉱山から流れ出た悪水により、佐分利川の鮭や鮎が不漁になったことによる1773年(安永2)の運上延納願や山論などについての願書、三森村名寄帳、宗門改帳、奉公人請状などの証書類、明治期の地券や辞令・当選状など141点。野尻銅山がもたらしていた多大な被害が休山後も続いていたことをうかがうことができます。



1P 津田彦次氏寄贈資料

福井藩士で英語の私塾を開いていた瓜生寅(うりゅう はじめ)が著した1874年(明治7)改訂版『日本国尽』第3巻東山道1点と1924年(大正13)発行の雑誌『劇と映画』1点。『日本国尽』は全8巻、日本各地の地理を五畿八道別に詳しく紹介した往来物の書籍で1872年(明治5)刊行。瓜生寅は岩倉遣欧使節団にも随行していました。(他に『福井県写真帖』も寄託されています。紹介は次号で。)



1P 白石健二氏寄贈資料

白石氏が撮影・収集した全国の鉄道風景写真『鉄路と風景』のうち福井県に関するもの222点と国鉄時代末期の福井県関係の鉄道パンフレット9点。写真では、国鉄時代末期の越美北線や廃止前の京福電鉄、電化前の小浜線の各駅とその周辺の風景などで、当時の様子をうかがうことができます。



ほかの寄贈・寄託資料については、次号で紹介いたします。

寄贈・寄託について

寄贈とは資料の所有権を当館にいただくことです。寄託とは、資料を一定期間当館に預けていただき、管理を任せさせていただくことです。寄贈・寄託された文書は、くん蒸して殺虫し、管理された温湿度の書庫内に保管します。そして、資料の目録を作成し、正式な手続きを経て、県民の皆様の利用に供します。歴史的な資料をお持ちの方で、保存管理に困っておられる方は当館にご相談ください。

お知らせ

講座のご案内

古文書読解講座

もっと古文書について知りたいという方に

平成15年10月26日(日)11月2日(日)11月9日(日)

会場：研修室 13:30～15:30 定員30名

講師：文書館職員

文書館調査で新たに発見された元禄期の大庄屋日記(土屋豊孝家文書)を読んでいきます。*3回シリーズ

「越前・若狭の古文書 古文書学入門」

平成15年11月16日(日)13:30～15:30

会場：福井県立図書館小集会室

講師：隼田嘉彦氏(福井大学教育地域科学部教授)

県史講座

平成16年1月31日(土) 13:30～15:30

「幕末の福井藩」本川幹男氏(県文書館)

平成16年2月14日(土) 13:30～15:30

「元禄期の越前幕府領」藤野立恵氏(福井工業大学)

講演会のご案内

「維新の激動と近代福井」

猪飼隆明氏(大阪大学大学院文学研究科教授)

平成16年2月8日(日)13:30～15:30

会場：福井県立図書館多目的ホール

ホームページもご覧ください

ホームページでは、館からのお知らせ、出版物、公開資料の目録、『福井県史』通史編、『図説福井県史』などがご覧になれます。ホームページアドレスは下記の通りです。

<http://www.archives.pref.fukui.jp>



文書館だより Fukui Prefectural Archives 第2号

平成15年9月30日発行

編集・発行／福井県文書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891

ホームページアドレス <http://www.archives.pref.fukui.jp>

電子メールアドレス bunshokan@ain.pref.fukui.jp

ご利用案内

開館時間

午前9時から午後6時まで

休館日

月曜日

国民の祝日

文書等点検期間(年間10日以内)

年末年始(12月28日～1月4日)

清掃整理日(12月以外の第4木曜日)



フレンドリーバス(無料)のご案内

運行日：毎週月曜日、年末年始(12.28～1.4)を除く毎日のりば：市内バス5番のりば

経路：福井駅前～高志高校前～羽水高校前～生活学習館～県立図書館(県文書館)
(高志高校前、羽水高校前では、行きは乗車のみ、帰りは降車のみ可能です。)

運行時間：平日8:30～19:25 土日8:30～18:25

運行間隔：30分間隔

(5番のりば、県立図書館ともに毎時00分、30分発)

使用車両：路線バスタイプのバス2両で、

1両は車椅子用電動リフト付きです。

編集後記

6月より県職員の名札が変わりました。名札には所属目録が書かれています。当館では「福井の歴史と皆さまをつなぐかけ橋となります。」を目標に、利用しやすい文書館づくりに力を注いでいきたいと考えています。